

## プロフェッショナル訪問

入り口の「カギ」はその人が通ってきたルート情報一。グローバル・アドバンス（東京都中央区、大野和人社長、03・5543・3682）は経路管理システムを自社開発し、病院、介護施設などのさまざまな人が出入りする場所での、セキュリティ強化システムとして活用、販売している。

開かれた施設としての役割が求められる病院などは、不審者が侵入しやすい。1人の警備員では来訪者を1人ずつチェックするのは難しく、容易に不審者扱いもできないため開発した。

同システムは10カ所以上の介護施設で運用されており、「人による警備を補完するシステム」（大野社長）として機能している。介護スタッフや警備員の負担、警備面での人件費が抑えられると好評だ。

当初は入り口にカードをかざして人物をチェックするシステムだったが、経路管理を組み合わせたことでセキュリティ効果を大幅にアップ。「ルートとカギ」を連動させ、特許技術を生かして自のシステムを製品化したことで好評を得た。

具体的には入院患者や入居者などは特定人物とし、専用のカードを所持。病室から診察室、次いでテレビ室など、各場所でカードを専用機器にかざすと各入り口が開く仕組み。誤った経路を通れば、カードをかざしても解錠

## 介護施設での監視システム開発・運用

カードでタッチし、人物を特定、経路を管理



しない。通ってきたルートそのものが「カギ」となっているため、カードを紛失、盗難にあってもセキュリティに影響はなく不審者は侵入できない。

一方、外来患者や見舞客などは特定人物と見なし、ロビーで専用カードを発行する。ロビーとエレベーター、指定の病室しか入れない仕組みになっており、ほかの入院患者、入居者のプライバシーは守られる。また、データに読み込まれたルートしか通れないため、はいかい者の見守りに役立つ。

大野社長は「セキュリティの行き過ぎは住みにくい社会をもたらす」として、同システムの役割はあくまでも人による警備の支援に置く。顧客ニーズに応じてシステムをカスタマイズし提供している。